

あぐりめ〜る新川

第73号（平成28年12月発行）

富山県新川農林振興センター

〒938-0801 黒部市荻生 3200

TEL: (0765)

担い手支援課 52-0268, 52-5192

農業普及課 52-0094, 52-0945

FAX: (0765)52-3115

http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1630/

新川 農業の未来を担う人 ～第19回～

かわた りょうすけ よしこ
川田 良祐さん 好子さん（黒部市本野）

～地域に信頼される担い手として～

川田さんは新川スーパー農道の東側、周囲には高い法面と傾斜のきつい段々田んぼが広がる本野集落で、水稻・大麦・園芸の複合経営に取り組んでいます。

夫の良祐さんは平成12年に好子さんとの結婚を機に26歳で就農しました。農業は未経験でしたが、篤農家である義理のお父さんから農業技術を習得するとともに、県や地元黒部市の青年農業者組織の活動を通じて同年代の農業者との交流を深めながら、徐々に農業経営者としての資質を高めていきました。水稻部門を任されるようになると、高齢化の進行等で受託農地は集落外からも増加し、水稻の作付面積は20ha以上までに拡大しました。現在、JAくろべ前沢地域の中心的な担い手として、中山間地域の農業生産振興に貢献しています。



育苗ハウス後にはハウレンソウやコマツナ栽培で収益確保。新たにニンジンやキャベツにもチャレンジ！

～品質・食味を重視した中山間地ならではの米づくりをモットーに～



平成26年度富山県農業振興賞を受賞

「山手の田んぼは粘質で日照時間が少ないからコシヒカリは倒れやすい。収量では勝負できないが食味には自信がある」と、良祐さんは自分の米作りの信念をこう語ります。中山間地域の不利な条件を克服し、品質・食味にこだわった米づくりをモットーに、きめ細かい栽培管理と徹底した選別作業で商品性の高い米づくりに好子さんと二人三脚で取り組んできました。良祐さんは就農当時と比べると農業情勢が大きく変わってきていることに危機感を持っていますが、弱腰になることなく、仲間の農業者と協力し、こだわり米の販路の開拓や野菜栽培に意欲的にチャレンジしています。

P.2,3… 平成28年度産稲作を振り返って ～紙一重の勝利～

P.4,5… 契約取引野菜（ねぎたん）、加工用キャベツ、カンカン野菜）の紹介

P.6… 環境保全に向けたGAPの取り組みについて

P.7… 新たな地域特産物になるか？獣被害ほ場での「エゴマ」栽培

P.8… 北陸ブロック農業青年会議でKUUFARMERZが発表、耳より情報

平成 28 年産稲作を振り返って ～紙一重の勝利～

富山県の作況は良の106、また新川地区のうるち玄米1等比率（10月末現在）は96.4%と、量・質とも良い成績となりました。

しかしながら、気象に助けられた部分も多く、ポイント毎にコシヒカリの生育を振り返ってみます。

表1 うるち玄米1等比率

区分	28年産	品種別内訳			（参考） 27年産
		コシヒカリ	てんたかく	てんこもり	
新川管内	96.4	96.6	92.2	99.7	96.2
富山県	90.2	89.6	93.1	96.4	91.4

注)28年産は10月末現在

ポイント1 穂数型稲

・・・ ○ 初期茎数は順調に確保

田植後の好天もあり、初期茎数(=良質な分けつ)は平年並に確保し、有効分けつ期も6/14頃と、**平年並に有効茎を確保**しました。

高温登熟の回避に向けた『遅植え』は、連休植えに比べると、生育期間(栄養成長期間)が短いため、“きめ細やかな水管理”が要(かなめ)です。

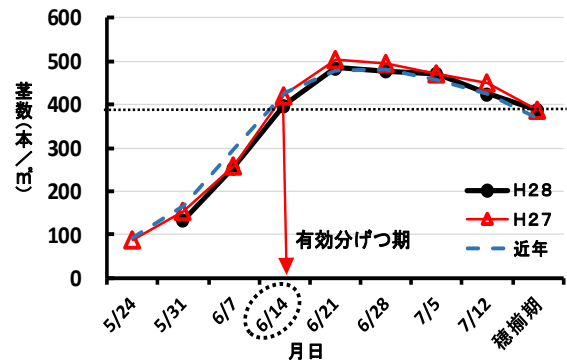


図1 茎数の推移(新川管内調査ほ)

[キーワード] 70株植え・浅水管理・ガス抜き

ポイント2 根づくり

・・・ ✕ 中干しが遅れたほ場が多数発生

今年最大の問題は、“**中干しの遅れ**”です。

有効茎確保の頃から、しっかり中干しを行うことが重要ですが、今年はちょうど降雨時期と重なり

(図2参照)、**多くが6/18頃からの中干し**となり、出遅れました。また6/16-20の期間に干さなかつたほ場では、その後の梅雨の本格化に伴って、ほ場が干しあがらず、根張りが不十分なまま幼穂形成期を迎えました。

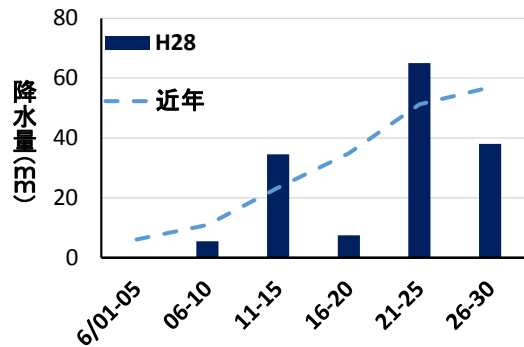
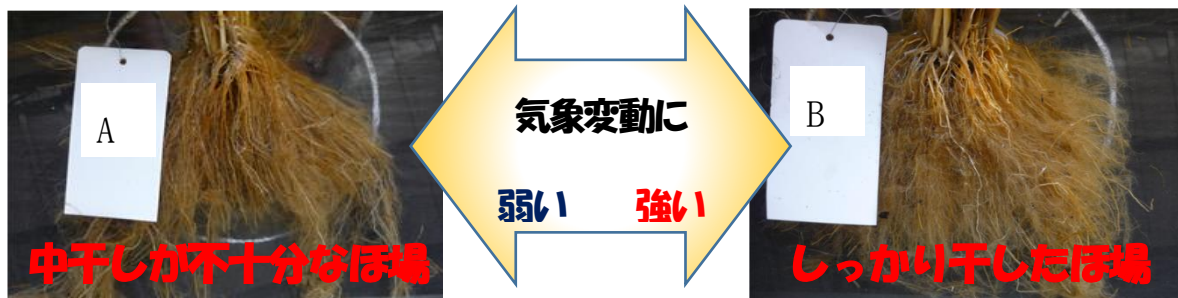


図2 6月の降水量(半旬別)

稲の根量は、“**梅雨が本格化する前に、どれだけ田んぼが干せたか?**”で決まります。6月中にしっかり根(直下根)を下へ伸ばすことは、その後のうわ根も伸長を促進し、高温に耐えうる・登熟の良い稲体へとつながります。

気象変動に強い稲づくりは、まさに根づくりそのものです。根を意識してこそ、栽培のプロです。

[キーワード] 田植1か月後からの中干し、直下根(6月中)、うわ根(7月)



ポイント3 高温登熟の回避

・・・○ 出穂期は早かったが、登熟期の気温はほぼ平年並

今年の**出穂期(管内平均: 8/2頃)**はH25に次ぐ**早さ**で、根張りが不十分なほ場が多い中、またエルニーニョ現象も終息し、高温に耐えられるか大変懸念されました。

しかし今年の登熟期間はやや高温であった程度で、出穂後10日間の平均気温は26.0℃、出穂後20日間でも26.3℃と**高温登熟は回避**されました。

表2 出穂期以降の日別平均気温

	H28	H25 (高温年)	近年 H18-27
出穂～10日後	26.0	27.0	26.6
11～20日後	26.6	27.4	25.7
(出穂～20日後)	26.3	27.2	26.2
21～30日後	24.4	26.4	24.4
31～40日後	24.1	25.2	23.0
出穂期(平均)	8/2	8/1	8/5

魚津アメダスデータより作成

[キーワード] 遅植え、高温登熟の回避、早生・晩生(直播)の拡大

ポイント4 適期刈取り

・・・○ 早回った成熟期へは対応、▲しかし長雨で刈遅れ発生

今年の大きな特徴のひとつに、『**出穂後の多照等に伴う登熟日数の短縮・秋の長雨**』がありました。

出穂後の気温が、11日後以降やや高めに推移した上、多照であったこと、日温格差が大きかったこと(表3参照)から、養分の転流が盛んに行われたため、成熟が早回ったものです。

このため、例年になく早くから稲刈りが始まりましたが、9/7以降、連続した晴天日が少なく、大半のほ場で刈遅れとなりました。幸いにも、フェーン等の高温の日が無かったため、なんとか胴割米の発生は免れましたが、非常に危険な年でした。

経営体ごとに、「刈取り」・「乾燥調製」能力を十分考慮した作付計画(作期分散)や収穫計画が重要です。

[キーワード] 適期刈取り、作期分散

表3 出穂後の日温格差

出穂後の 日数	日温格差(℃/日)		
	H28	近年	近年比
1～5日	8.5	8.5	±0.0
6～10日	8.7	8.6	0.1
11～15日	8.8	8.8	±0.0
16～20日	7.4	8.8	-1.4
21～25日	8.1	7.9	0.2
26～30日	10.7	7.7	3.0
31～35日	9.9	8.1	1.8
36～40日	6.9	9.1	-2.1
平均	8.6	8.4	0.2

魚津アメダスデータより作成

以上、ポイント毎に今年の稲作を振り返ってみました。各々の経営体でキーワード毎に今年を振り返り、次年度の稲作に活かしましょう。

契約取引野菜（ねぎたんJ、加工用キャベツ、カンカン野菜）の紹介

野菜栽培は、天候に左右されやすいことに加え、出荷する時期の生産量や価格が大きく変動する特性があり、生産者は安定した収益を得ることが課題でした。

そのような中、JAグループや県内市場が特定の品目について、あらかじめ値決めをし、契約的な販売に取り組む事例が増えてきています。

そこで、現在取り組まれている代表的な契約取引野菜についてご紹介します。

1. ねぎたんJの契約取引について

(1) 契約取引が始まった背景

ねぎたんJは、全長40cmと通常の白ねぎよりも短いねぎで、①買い物袋からはみ出さない「買いやすい」、②一度で食べきれ「使いやすい」、③冷蔵庫にすっきり入る「保存しやすい」ねぎとして、平成18年から販売されている富山県オリジナルの商品です。ねぎたんJは白ねぎ生産者が栽培していることが多く、白ねぎが出荷される前の7月下旬、8月上旬に出荷量が急増します。それにより、市場単価が急落することが多く、課題となっており、価格の安定化を図るため、平成27年から全農とやまでは2社との契約取引を開始しています。

(2) 生協向けの更に短いねぎたんJ

ユーコープ（関東を中心とした生協）では、組合員への宅配箱にすっきり入るネギがほしいと考えていたところ、短さを特徴としたねぎたんJに注目されました。そこで、市場出荷用より短い全長30cmに切った独自の規格で契約取引し、H28年には13t（全出荷量の17%）が出荷されています。



写真1 左から「袋詰め」、「市場出荷用」、「生協用」

(3) プレミアム感のある袋入りねぎたんJ

消費者のネギに対する要望として、直接手で触れない袋詰めニーズがあります。全国のこだわり商品を扱う量販店に商品提案を行っている東京の企画会社と契約取引し、袋詰めした独自の規格でH28には8t（全出荷量の11%）が出荷されています。

2. 加工用キャベツの契約取引について

(1) 全国的なキャベツの消費動向

農水省・農林水産政策研究所によると、野菜需要のうち約6割が加工・業務用需要となっています。キャベツについても約5割が加工・業務用需要となっており、加工・業務用に向けた生産が全国各地で行われています。



写真2 機械化された定植作業の様子

(2) 加工用キャベツの導入メリット

キャベツ栽培は、播種・定植が機械化されており、秋冬どり作型では、播種～収穫まで生育期間も約3ヶ月と短く、栽培管理も省力的な品目です。



写真3 圃場ですぐに出荷用コンテナへ

(3) 県内での取組み事例

本県では、全農とやまが窓口となり、県内でこの取組みに賛同される生産者を取りまとめ、県内外の業者と契約取引を行っています。

全農とやまでは、うね立て機や定植機の貸出しを行っており、省力栽培支援を行っています。通常の野菜栽培では、収穫・調製作業に最も労力がかかりますが、加工用キャベツでは、圃場内に鉄製コンテナを直接持ち込み、収穫したキャベツを重量選別なし（※ただし、1.2 kg以上のもの）で、詰め込んで出荷します。

当センター管内で取組まれた事例では、1回当たりの出荷で3 t（約7a分）の収穫・調製・出荷作業を8名×3時間で行い省力栽培が可能であると確認できました。

3. カンカン野菜の契約取引について

(1) カンカン野菜とは？

本県は積雪の影響から、冬期間は野菜の出荷量が大変少なくなります。そのため、県内の市場関係者からは、冬期間の県産野菜を確保するため、冬の寒さで品質が向上するなど特色のある野菜14品目を「カンカン野菜」と定め、事前に値決めをして生産を奨励しています。

(2) 県内での取組み状況

最も生産量が多いのは、「ハウスねぎ」で水稻育苗ハウスの有効利用と冬期間の仕事の確保などが図れるほか、非常に甘く、やわらかいネギとして、消費者からも人気があります。

甘さが特徴の「寒締めほうれんそう」は市場関係者からの要望が高い品目です。

また、数年前からさつまいもの生産量が増加しています。露地栽培したものを10月頃に収穫し、一定期間貯蔵することで、とても甘くなり、他のさつまいもと差別化されています。

表1 県内のカンカン野菜生産状況(平成27年度実績)

品目		面積 (a)	出荷量 (kg)	販売額 (円)
ハウス	ハウスねぎ	259	40,482	14,267,210
	寒締めほうれんそう	98	7,431	5,234,410
	寒締めこまつな	37	2,168	1,277,600
	なばな	24	978	641,160
	プチヴェール	22	94	177,480
	いちご	20	122	173,600
露地	さつまいも	38	39,783	6,862,710
	雪中にんじん	270	21,687	1,924,815
	雪中キャベツ	155	18,290	930,040
	ヤーコン	5	1,270	178,540
	雪中かぶ	35	406	64,200
	雪中だいこん	15	—	—
計		978	132,711	31,731,765

環境保全に向けたGAPの取組みについて

県では、「安全な農産物の生産」、「環境の保全」及び「農業者の安全確保」の3つの視点から、農業生産活動におけるリスク発現を未然に防ぎ、よりよい農業生産活動につながるGAPの取組みを積極的に進めています。

今回は、環境汚染を防ぎ、環境への負荷を軽減する「環境の保全」に関する具体的な取組事例を紹介します。

1 油類の流出防止対策

「燃料タンク」には、万が一の燃料漏れを想定した「防油堤」の設置が必要です。

しかし、その多くが未設置のため、燃料の流出事故が発生しています。

「GAP」の取組みの中で、燃料漏れ対策は、環境汚染を防ぐ取組みとして「必須」な項目と位置づけられています。

流出事故の多くは、貯蔵容器や配管の破損などが原因であることから、定期的に設備を点検しましょう。



防油堤の例

2 薬剤散布後の対策

農薬散布時の周辺ほ場などへの飛散（ドリフト）防止とあわせて、農薬散布後の散布器具などの洗浄水を用水路に流出させないことが、「必須」の取組みとされています。

散布器具の洗浄水が用水路に流出しないよう、傾斜をついた洗浄場所を設け、非農用地に排水を貯留し、農薬成分を沈殿させ、自然分解を待ちます。

農薬散布後の対策



傾斜がついた散布器具の洗浄場所



洗浄水の貯留池

その他の取組みとして、代かき後の濁り水は排出しない、過剰な施肥をしないなどの対策を含め、環境への負荷低減に取り組ましましょう。

新たな地域特産物になるか？ 獣被害ほ場での「エゴマ」栽培

朝日町の境生産組合では、イノシシ被害で水稻の作付を断念したほ場で、健康に良いと話題の「エゴマ」を初めて栽培しました。獣が独特の芳香を嫌い、獣被害が少ないと云われる「エゴマ」。果たして獣被害に悩む中山間地の新たな特産物となるのでしょうか？

1. 「エゴマ」とは？

「エゴマ」は、シソ科の1年草で、子実には、動脈硬化の予防や抗アレルギー等の効果が期待されるオメガ3系脂肪酸のα-リノレン酸を多く含み、生絞り油は1,300円/100ccからと高値で販売されています。



2. エゴマ栽培は無化学肥料、無農薬で。比較的栽培は容易だが手作業が多い…

植付け後、培土、摘芯の他あまり手はかかりませんが、収穫（刈倒し、脱粒）、乾燥、選別は手作業で行います。子実を傷つけないことが良品な油を得るポイントです。

＜えごま栽培暦＞



3. 葉も実も食べられる「エゴマ」

入善町では、葉を使った「おかずみそ」が既に商品化されて人気となっています。滑川市内の搾油所で子実を搾油し「エゴマ油」としてJAみな穂あいさい広場で販売する予定です。今年、イノシシの侵入も無かったことから、中山間地の新しい特産物としての期待が膨らみます。



ヤギで地域を元気に！ 農業体験学習と都市農村交流に取り組む 中山間地域チャレンジ支援事業を活用した事例紹介 ② 小菅沼・ヤギの杜



魚津市小菅沼では、担い手の高齢化や過疎化、鳥獣被害の増加による耕作放棄地の発生で、集落機能の低下が懸念されるなか、平成20年に「集落内外の有志」が集落活動をサポートする「小菅沼・ヤギの杜」を結成し、ヤギによる下草管理など中山間地域の環境保全に向けた取り組みを始めました。平成23～24年には「中山間地域チャレンジ支援事業」を活用し、ヤギレンタルを行っている企業や地元住民へ米の販路開拓や情報発信を行うなど、豊かな山の暮らしを伝えるPRや交流を進めています。

また、森林整備による集落環境の向上、市街地の小学生との農業体験学習会「稲作アート大作戦！」など、耕作放棄地の解消や都市農村交流にも積極的に取り組み、平成25年からは農産加工品製造も始め、ルバーブジャムやアート米を使った商品を開発、地元や都市部でのイベントを通じ「食」の面からも小菅沼の魅力を発信しています。



北陸ブロック農業青年会議でKUUファーマーズが発表

11月22～23日の2日間、北陸4県の青年農業者が一堂に会する「北陸ブロック農業青年会議」がホテル日航金沢（金沢市）で開催され、富山県代表としてKUUファーマーズの2名が発表を行いました。プロジェクト発表では、島澤耕平さんが中山間地の水田畦畔でのおしょうらい花やシャクヤクの定植活動について、また、意見発表では、小林由紀子さんが自家生産された米を活用した米粉パン作りへの挑戦について発表を行い、審査の結果、島澤さんは優良賞、小林さんは優秀賞を受賞しました。当日は、KUUファーマーズの仲間を始め、多くの青年農業者や県・農林水産省等の関係者が参加しており、2人にとっては、自分自身の活動について、広く知ってもらう大変貴重な機会となりました。



島澤耕平さん



小林由紀子さん

耳より情報・・・農業経営者の皆さんへ♪♪

その1 eマーク商品募集

本県では、県内で生産される「主要原材料が富山県産100%」「製造工場等が富山県内」「食品としての品質が優れている」ことが確認できた良質な農林水産加工食品に認証マークを付し、「富山の特産品」として全国にPRしています。



H28年度より、今までの31品目*に加え、**焼き菓子、ます寿し、調味みそ、柿酢・柿酢調**



H27年度認証商品

味料の認証基準が定められ、新たに申請対象品目となりました。

法律に基づく表示やJAS規格に準ずる品質、製造所の衛生や書類整備状況などが専門家の目によりチェックされ、指導を受けることができます。**申請費用は無料**です。認定審査は2回/年ですが、申請は常時受付けていますので、詳細は、**経営支援班（52-0268）**までお問い合わせください。

*対象品目抜粋（生もち、かぶら寿し、農産物漬物、食用植物油脂類、干柿、ジャム、煮豆、豆菓子、米みそ、お茶類、パン類、乾めん類、乾燥野菜・果実類 他）

その2 経営力アップに向けた研修会の開催～1月からは若手育成講座～

当センターでは、新しい経営知識の習得を目標に11～12月に①農産物の輸出、②GAP ③6次産業化をテーマに研修会を開催してきました(右写真)。

新年1月からは、新規就農者等を対象に「若手育成講座」を下表により開催します。若い農業者の方には、末尾にご応募を頂き、受講されることをお待ちしております。



GAP研修会で、自社のGAP認証取組みについて講演された樽蔵産業(株) (高岡市福岡町)石王代表取締役

月日	内容	講師 (敬称略)
1/13(金)	自社ブランドを活かす	松蔵高子(石川6次化プラナ)
1/24(火)	SNSによるPRと販促	遠田幹雄()
2/1(水)	写真撮影スキル向上	徳光典子(フォトグラファー)
2/14(火)	営業とビジネスマナー	長谷川綾子(元TVアウン)

場所：コラーレ会議室1(黒部市三日市20)など

応募・お問い合わせ先：経営支援班 (52-0268)